

信州イスラーム世界勉強会

第51回定例会「イランは、中東は、アジアは、世界は、一体どうなる？」

報告（概要）

第1部 徹底討論 「イランは、中東は、アジアは、世界は、一体どうなる？」

5月23日（土） 13:30～18:00

松本市中央公民館（M ウィング）会議室

会場参加 70名（満席）、オンライン参加 35名。

徹底討論では、討論者（10名）の問題提起（2時間）のあと、会場・オンライン参加者を含めての質疑討論（2時間半）が行われた。

論点・発言を下記に要約しました。

<討論者からの問題提起>

・現今の世界では、諸勢力があらゆる情報通信手段を駆使して、人々の認識を操作している（「認知戦」）。当事者やメディアの報道を鵜呑みにせず、疑い、根本を見据える必要がある。

・イスラエルと米国によるイラン攻撃は、明白な国際法違反であり、中東諸国のみならず、日本を含め、世界中に混乱・困窮をもたらしている。なぜ、このような無謀な戦争が行われ、止めることができないのか？

・トランプ米大統領の甘い見通し（最高指導者を殺害すればイランの政権・政策は変わる）が一因ではあるが、イラン・イラク戦争（1980～88）や湾岸戦争（1991）などの経験からペルシア湾封鎖予測できた。さらに今回は、湾岸諸国を巻き込み、国の存亡がかかる事態となっている。

・米国内では、トランプ政権は、イスラエル・ロビーの圧力や資金によって戦争を行っており、米国の利益ではない、という指摘がなされ、直近の世論調査では、パレスチナ支持がイスラエル支持を上回っている。

・イラン国民は、イラン革命（1979年）以降、厳しい国際・国内情勢のなかで、自分たちは抑圧・搾取され、抑圧者と戦うという世界観で生き延びてきた。現今の事態は、南アジアのスナ派を含めて、イランを支持する声広がっている。

・イスラエルは、米国にイランを攻撃させ、自身はレバノンで支配権を拡大しようとしている。イスラエルは、建国（1948年）以来、ずっと中東諸国の分断を図り、自身に敵対する勢力に対しては武力攻撃（暗殺を含む）を行ってきた。今回のイラン攻撃は、その総仕上げであり、これ（パレスチナ問題）を放置した国際社会が、窮地に立たされている。

・ネタニヤフ・イスラエル首相の「文明対野蛮」という構図、あるいは、トラン

プ大統領の「一夜で文明を消滅させる」の発言に示されるように、一方的な攻撃がなされる背景には、人種差別がある。

・グローバル化は、米国再生の戦略であり、戦争を起こし、稼いできた。アルバネーゼ国連報告書は、ガザはジェノサイド経済であると指摘している。

・米国とイスラエルが先制攻撃をした。戦争を始めたほうが謝って戦争をやめる、というのが人類の声でなければならない。こんな、小学生でもわかる単純なことをごまかすメディアがはびこっている。

・石油やナフサが問題になっているが、日本のエネルギー資源の輸入元は UAE や サウジに過度に集中している。いま、脱炭素化に転換する、いい機会だ。

<会場を含む全体討論>

・イランの現体制への批判（国内・国外）をどうみるか？ →国内国外に批判の声があるとしても、それをもって、米国やイスラエルの攻撃を正当とすることはできないし、外から内部対立をあおることは事態を悪くする。

・Z世代は、銃を持つ世代、勉強しない世代、教養がないといわれる。トランプがどういう人か、日本がどういう国かわからない。原点にもどり、わかりやすく説明をしてくれる、勉強ができる場所作りが必要である。 →ドイツでは、若い人を含む、「平和の国家」をめぐる論争が起きている、との発言あり。

・若者が動くときは、知識ではない、とんでもない虐殺が行われている、これはダメだと思ったら、国会でも、中東にでも行くべきだ。勉強云々の問題ではないだろう。 →現地の人の声を理解するには、アラビア語などの多少の勉強が必要だ、という発言あり。

・ナチスが 1933 年に政権をにぎり、第 2 次世界大戦が始まる 39 年までパレスチナへの植民（棄民）運動を行い、それに全面協力した欧州のシオニスト団体は健康なユダヤ人青壮年男女を選別し送り込んだ。現地で受け入れたのは英国政府で、移住資金提供の諸財団を免税で保護したのは米国政府だった。1939 年には 9 年後イスラエル独立時のユダヤ人社会が出来ていた。パレスチナではユダヤ人入植者によるアラブ先住民の弾圧・虐殺、欧州では残された老人・子供の比重高いユダヤ人が強制収容所で虐殺の対象、が並行現象。パレスチナ問題を、ナクバ（1948 年イスラエル建国前後のアラブ住民追放の破局）に限定するのは、ナチズムに協力したシオニズムと英国と米国を免罪し、ホロコーストの記憶の操作によりイスラエルの成立を排他的に神聖化する仕掛けにのることになる。

・イスラエルのジェノサイドに加担する企業やイスラエルの農産物に対するボイコット運動（BDS 運動）は、公正かつ有効な運動といえるだろうか。イスラエルを孤立させると、なにをするかわからないという不安もある。 →南アフリカのアパルトヘイト反対運動は、孤立させることで変わった、との発言あり。